

5 刊行物

刊行物発行の変遷

開館以来の刊行物を以下にまとめる。科学博物館時代から続くもの、開館以来続くもの、開館後刊行され、現在休刊・廃刊しているものなどがある。年報、研究報告、広報物等は鳥取県立博物館ホームページにおいてPDFを公開している。

(1)鳥取県立博物館年報

開館後、年度の事業概要や管理運営状況を記載した年報である。令和3年度で50号を数える。

(2)鳥取県立博物館研究報告

年1回発行している、鳥取県の自然・歴史・美術に関連する研究やその普及啓発・発展および博物館研究や社会教育・学校教育に寄与することを目的とした出版物である。研究報告には、この目的に即した原著論文・総説・短報・研究ノート・資料紹介・目録・報告・書評などを掲載する。鳥取県立科学博物館時代の昭和37年度から刊行し、令和4年度までに通算59号が発行されている。

(3)普及誌、広報誌

鳥取県立科学館で昭和28年に刊行された普及誌『科学館シリーズ』は、科学に関する教材や参考資料とする目的で県民に広く手に取って読んでもらうため公民館や学校等に配布した。翌29年に鳥取県立科学博物館に改称後一時休刊したが、昭和33年に復刊された際に『郷土と科学』に名称変更した。これは県民(郷土)と博物館を結ぶ普及誌という意味合いで命名された。昭和47年に鳥取県立博物館が開館すると『郷土と博物館』に名称変更し、平成17年3月まで刊行は続いた(全50巻)。内容は小論、調査報告、随想、資料紹介、博物館ニュースなどがあり、執筆者は館職員、博物館関係者及び依頼による寄稿であった。

昭和53年より『博物館だより』と題したB4判2つ折り4ページ年4回発行の広報誌が刊行された。内容は常設展示の紹介、行事のお知らせ、話題のコーナーのほか、現在の普及広報誌『鳥取県立博物館ニュース』に構成は近い。平成11年で刊行は停止となった。

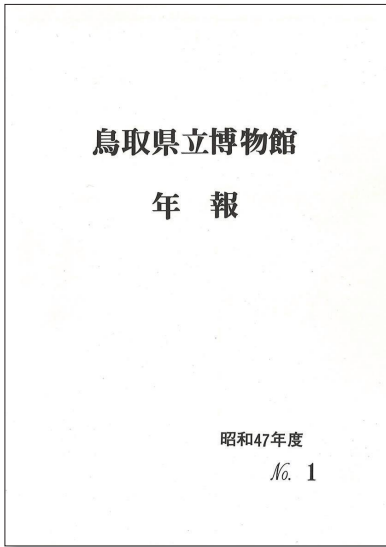
現在刊行している普及広報誌『鳥取県立博物館ニュース』であるが、その名称は前身である鳥取県立科学館時代に刊行された『科学館シリーズ』の中の1コーナーとして始まった(当時は「科学館ニュース」)。内容は企画展や普及講座などの活動報告が主で、広報ではなく事業報告がメインであった。平成17年度に刊行物を大幅に見直す機会があり、『郷土と博物館』における博物館の研究内容や資料紹介、『博物館だより』における展示案内や行事のお知らせを総括する普及刊行物として、A4判8頁の『MUSEUM PRESS 鳥取県立博物館ニュース』(現・鳥取県立博物館ニュース)が刊行されることとなった。

(4)その他の刊行物

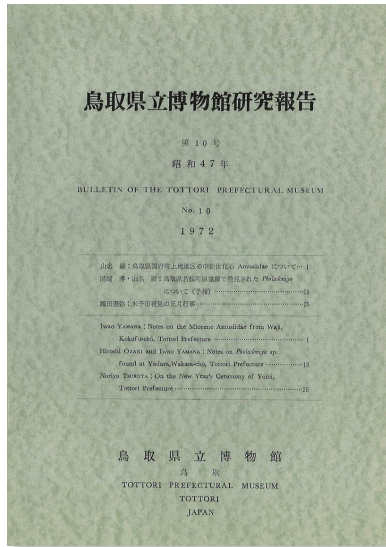
『総合案内』は平成25年度に、鳥取県立博物館の沿革、各分野の常設展示、普及活動及び収蔵資料の紹介、利用案内などを内容としたA4判の小冊子である。

このほか、開館後10年ごとの事業記録をまとめた記念誌が、10年目、20年目、30年目に刊行された。『鳥取県立博物館 10年のあゆみ』(S58年3月)、『鳥取県立博物館 この10年(S58年度～H4年度)』(H5年3月)、『鳥取県立博物館 この10年(H5年度～14年度)』(H15年3月)。

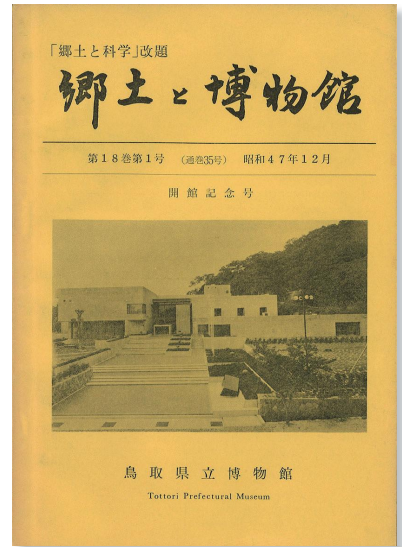
また、企画展図録や資料目録、調査報告も適宜刊行している。



鳥取県立博物館 年報



鳥取県立博物館研究報告



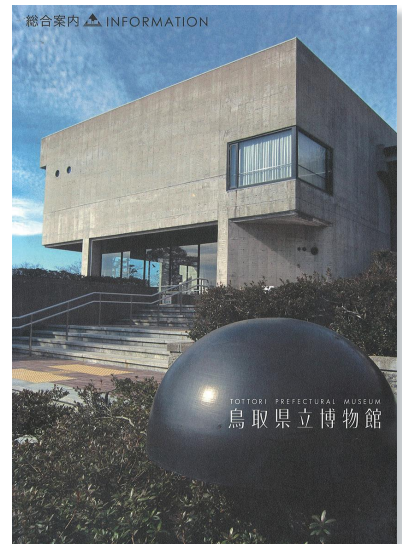
郷土と博物館



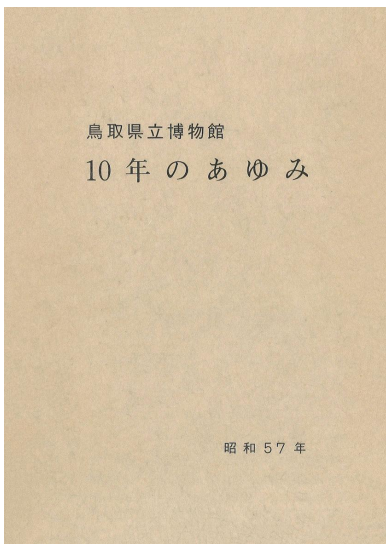
博物館だより



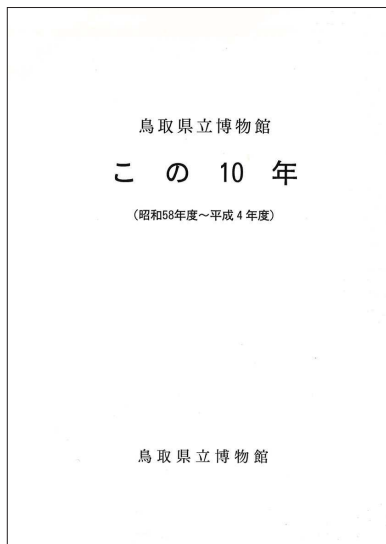
鳥取県立博物館ニュース



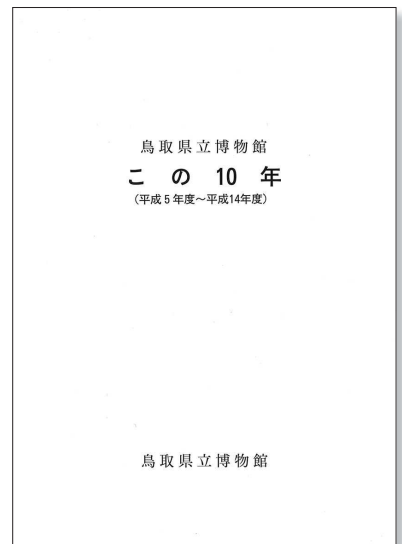
鳥取県立博物館 総合案内



10年のあゆみ



この10年(昭和58年度～平成4年度)



この10年(平成5年度～平成14年度)